

平成 24 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 2 号

病虫害名： サツマイモヒサゴトビハムシ
Chaetocnema confinis Crotch, 1873

対 象： ヨウサイ（別名：エンサイ，空芯菜）

1．特殊報の内容

サツマイモヒサゴトビハムシの発生と被害を都下(小笠原村父島)のヨウサイで初めて確認した。

2．発生経過

(1) 2012年7月，父島内の複数のヨウサイ露地圃場において，葉を細かな線状に食害する微小なトビハムシが発見された。採集した成虫を横浜植物防疫所へ同定依頼したところ，都内未発生のサツマイモヒサゴトビハムシであることが確認された。その後の調査で，サツマイモや，海岸地域に自生するゲンバイヒルガオでも生息が確認された。

(2) 本種は，北米，台湾，パラオ諸島，アフリカなどに分布している。国内では鹿児島県，宮崎県，沖縄県で確認されている。現在までのところ，都の近県における発生は報告されていない。

(3) 都内で発生を確認しているのは父島のみで，島しょ部を含む他の地域では確認されていない。

3．形態（第1～4図：成虫）

(1) 成虫の体長は 1.5mm 前後。だ円形で，ブロンズがかった黒色。上翅には列状に強い点刻が認められる。また，後脚腿節の幅が極めて広く，触角及び脛節は赤みがかった黄色である。

4．生態

(1) 寄主植物はサツマイモ等ヒルガオ科植物，特にサツマイモ属に寄生する。

(2) 成虫は，ヒルガオ科植物の葉を食餌とする。幼虫は，サツマイモでは塊根を線状に加害するという報告がある。なお，ヨウサイの食害記録は沖縄県から報告されている(今坂・石関，2012)。

(3) 本種は中部アメリカ，南アメリカ等の熱帯地域では単為生殖する個体群の存在が報告されており，日本国内における調査でも雄は記録されていない(今坂・石関，2012)。父島の採集個体も調査した限りでは全て雌であった。

5．被害

(1) 成虫は葉を細かな線状に加害するため，葉を利用するヨウサイでは経済的被害が発生する(第5～6図)。

6．防除対策および注意

(1) 現在のところ，本種に登録のある農薬はない。

(2) 防虫網(目合 1mm 以下)で覆うなどして成虫の侵入を防ぐ。

(3) 小笠原諸島からのヨウサイやサツマイモ等のヒルガオ科植物は持ち出しが規制されている。

7．参考文献

今坂 正一・石関 博(2012) さやばねニューシリーズ(5): 18-21.



第 1 図 成虫（背面）



第 2 図 成虫（腹面）



第 3 図 成虫（側面）



第 4 図 成虫（頭部）



第 5 図 ヨウサイ葉の食害痕



第 6 図 ヨウサイ葉上の成虫と食害痕